

# ReadCache システム 4.0 簡単セットアップ

## ※ 導入前の注意事項 ※

本バージョン導入前に、以下の処理を必ず行ってください。

- ・ インストール対象の端末がインターネットに接続されていない場合には、Page5. 「※インストール作業をしている PC がインターネットにつながっていないとき」の手順を参照し、ライセンスファイルをあらかじめ取得してください。
- ・ インストール/アンインストール作業を行う際には、ウィルス対策ソフトを停止してから作業を開始してください。
- ・ PVS6 の「自動更新」機能や「仮想環境を用いた更新機能」を利用することはできません。

## 1. 《事前準備1》旧バージョンの ReadCache のアンインストール

旧バージョン ( 3.5 ないし 3.6 ) の ReadCache が導入されているときには次の点に注意しつつアンインストールしてください。

対象バージョンの確認：

ReadCache4.0 は ReadCache3.5 ないし 3.6 が導入された vDisk との混在環境はサポートしますが、それ以前のバージョンのディスクとの混在環境はサポートしません。

( ReadCache3.0 等の) ReadCache3.5 よりも古いバージョンを利用中の vDisk がある場合には、まずそれらのアンインストールを行ってください。

(以下の説明では 3.6 を例にして説明していますが、3.5 の場合には適宜読み替えてください。)

vDisk 側でのアンインストール：

1. ReadCache4.0 を導入しようとする vDisk を書き換え可能な状態 ( Private モード等 ) にして端末を起動し、「コントロールパネル → プログラムのアンインストール」から「ReadCache3.6 クライアント」と「ReadCache3.6 ドライバ」を順にアンインストールしてください。その後端末をシャットダウンしてください。
2. vDisk の拡張を解除する必要はありません。

サーバー側でのアンインストール：

1. ReadCache4.0 を導入後に ReadCache3.6 の導入された vDisk も継続して使い続ける場合には、C:\Program Files\CO-CONV\ReadCache フォルダの内容を適切な場所にコピーしておき、今後 ReadCache3.6 の導入されたディスクに対してはコピー先のフォルダのツールを使うようにしてください。なお、ReadCache4.0 に付属する ReadCacheManager.exe は ReadCache3.6 の導入されたディスクに対して「リビジョン更新 (update コマンド)」のみは実行できます。
2. 「コントロールパネル → プログラムのアンインストール」から「ReadCache3.6 サーバー」をアンインストールしてください。

【備考欄】

## 2. 《事前準備2》 サーバー側 (vDisk 側) での準備

ReadCache を導入する vDisk を準備します。

- vDisk のファイル名は適切ですか？

変更する場合には、VHD ファイル、PVP ファイルの両方を変更してください。

### ※注意事項※

VHD ファイル名として使える文字は、英数字 ('A'-'Z','a'-'z','0'-'9') および "\_ (アンダースコア)", "& (アンパサンド)", "# (シャープ)", "% (パーセント)", "+ (プラス)", "- (マイナス)" の6つの記号から構成される、1文字以上27文字以下の文字列です。

◎良い例: Windows7.vhd

×悪い例: セブン.vhd、Windows[スペース]7.vhd

- 念のためにバックアップはとってありますか？ VHD ファイルに**重要な変更<sup>1)</sup>**を行います。
- 導入しようとする vDisk で起動している端末がある場合には電源を切断してください。
- PVS6.X 環境に導入する際には、仮想ディスクの「基本のマージ (仮想ディスク → バージョン → 基本のマージ)」を行ってください。

## 3. 《事前準備2》 クライアント端末側での準備

クライアント側の HDD には、キャッシュ領域として利用する「未使用領域」はありますか？

適切なサイズの未使用領域がない場合には以下の手順で「キャッシュ用パーティション領域」を確保してください。

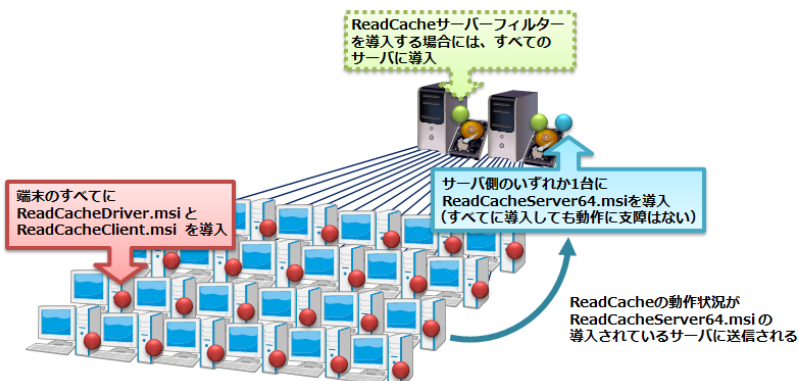
- クライアント端末を vDisk から起動してください。
- ディスク管理ツール を起動<sup>2)</sup> してください。すでに物理 HDD のすべての領域が D ドライブなどとして占有されているときには、領域の縮小 や 領域の解放をして 適切な容量<sup>2)</sup> の未使用領域を作成してください。

※ 再起動が必要となる場合があります。

## 4. 「.NET Framework」の導入 (サーバー側)

サーバー側には、.NET Framework 3.0<sup>4)</sup> 以降が導入されている必要があります。

## 5. モジュールの導入について



1)

vDisk 内にパーティションを1つ追加します。通常問題となることはありませんが、この処理によって既存のパーティションに含まれない場所のデータは書き換えられたり消去されたりする可能性があります。

この作業を行ったあとでも追加されたパーティションを削除することはできませんが、動的サイズの vDisk の場合にはディスクの状態は完全には元通りにはなりません。

安全のために作業前にバックアップの取得を推奨します。

2)

[コントロールパネル] → [管理ツール] → [コンピュータの管理] → [記憶域] → [ディスクの管理]

3)

キャッシュ対象とするディスク1種類につき20GB程度以上を目安としてください。詳細については、「管理者マニュアル」をご覧ください。

4)

サーバー側は .NET Framework 3.0 以降、クライアント側は .NET Framework 2.0 以降のバージョンが導入されている必要があります。

## 6. サーバーでのインストール (サーバー側)

サーバー側の各種ツールを導入します。サーバー側のツールは「ReadCacheServer64.msi」というモジュールと、任意で導入する「ReadCache サーバーフィルター」があります。

まず「ReadCacheServer64.msi」をインストールしてください。

1. 「ReadCacheServer64.msi」アイコンをダブルクリックし、インストールを開始します。
2. [次へ]→[次へ]→[インストール]→[完了]の順にクリックします。  
(ファイルが数個追加されサービスが1つ起動されますが、サーバーの再起動は不要です)



続いて、「ReadCache サーバーフィルター」を導入するかどうかを判断してください。今回のバージョンでは「ReadCache サーバーフィルター」という新機能が試験提供されており、導入するかどうかで次のような違いが生じます。

- ReadCache サーバーフィルターをインストールしない<sup>5)</sup>
  - × ドライブマッピングを行った後は、ReadCache ディスク管理ツールにより「ドライブマッピングの後処理を行う」を必ず実行する必要があります。その際には次回端末起動時に端末側のキャッシュが一旦消去されることになります。
  - ◎ ReadCache のバージョンアップ時、アンインストール時に PVS サーバーは再起動不要。
  - × PVS の "KMS ライセンス対応" "MAK ライセンス対応" の機能は利用できません。
- ReadCache サーバーフィルターをインストールする
  - ◎ ドライブマッピングを行った際においても、端末側のキャッシュが残り続けます。
  - × ReadCache のバージョンアップ時、アンインストール時に PVS サーバーの再起動が必要となります。(インストール時には再起動不要)
  - ◎ PVS の "KMS ライセンス対応" "MAK ライセンス対応" の機能を利用できます。

このモジュールの導入は必須ではありません。

现阶段ではこのモジュールは「試験提供」の扱いとしており、この機能を利用したことによる効果や影響については十分な理解と評価の上で利用を検討してください。

このモジュールの機能や効果、注意事項をご確認いただいた上で導入される場合には、「ReadCache サーバーフィルター導入手順書」をご覧ください。

5)

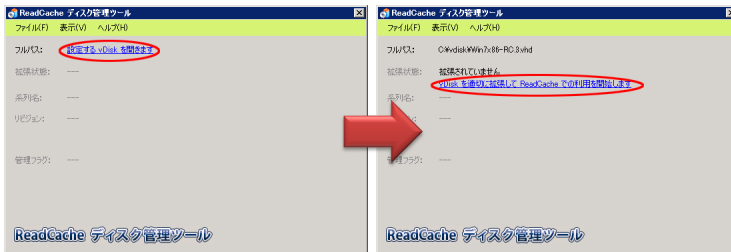
ReadCache サーバーフィルターを導入していない場合には、ドライブマッピングを使用した後にはすぐに「ドライブマッピングの後処理」を行う必要があります。詳しくは「管理者マニュアル」をご覧ください。

## 7. 作業用端末への vDisk 割り当て (サーバー側)

PVS6 環境においては、vDisk が「基本のマージ」かつ「書き換えできる状態<sup>6)</sup>」にして作業端末に割り当ててください。

## 8. vDisk の拡張 (サーバー側)

1. 端末を起動してください。
2. スタートメニューから [ ReadCache ] → [ ReadCache ディスク管理ツール ] を実行してください。
3. [ 設定する vDisk を開きます ] のリンクをクリックし、vDisk へのパスを選択します。初めての利用時には「拡張されていません」となります。[ vDisk を拡張して ReadCache での利用を開始します ] をクリックして、vDisk を拡張してください<sup>7)</sup>。



6)

- PVS6 の場合：保守モード ないしはプライベートモード
- CO-Store 等の管理ツールを導入している場合には、そのツールを用いて書き換え状態にしてください。

7)



ReadCache ディスク管理ツールを実行することで、以下の処理が行われます。

- vDisk のサイズが拡張され、ReadCache の管理用パーティションが作られます。
- 系列名およびリビジョンが設定されます。
- ReadCache が動作するように設定されます。

## 9. クライアントでのインストール (クライアント側)

vDisk に ReadCache ドライバをインストールします。

作業用端末を起動し、管理者権限でログオンします。クライアント側の各種ツールを導入します。

※ 作業途中で再起動しないでください。

【クライアント OS が 32bit の場合】

「ReadCacheDriver.msi」「ReadCacheClient.msi」をクライアント側にコピーします。

【クライアント OS が 64bit の場合】

「ReadCacheDriver64.msi」「ReadCacheClient64.msi」をクライアント側にコピーします。

1. 「ReadCacheDriver.msi」または「ReadCacheDriver64.msi」アイコンをダブルクリックし、インストールを開始します<sup>8)</sup>。
2. 途中、以下のいずれかの画面が表示されます。

8)

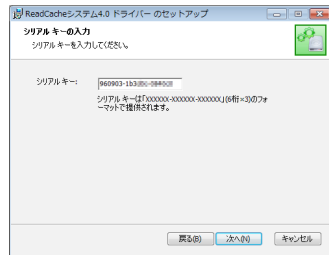


成功時	失敗時
<p>この画面が出た時には、[ 次へ ] ボタンをクリックし、進んでください。</p>	<p>以下の画面となった時には、複数の HDD が検出されています。どのディスクを使用してインストール作業を行うか、選択してください。</p> <p>■ ディスクが複数ある時</p>
	<p>以下の画面となった時には、端末にディスクが接続されていることを確認して再度手順「7. クライアントでのインストール (クライアント側)」からやり直してください。</p> <p>■ ディスクがひとつも見つからない時</p>

3. ライセンスを登録します。

購入時に入手した「シリアルキー」<sup>9)</sup>を入力すると、自動的にライセンスサーバーに接続し<sup>10)</sup>、「ライセンス ファイル」を入手します。

シリアルキーを入力し、[次へ]をクリックします。

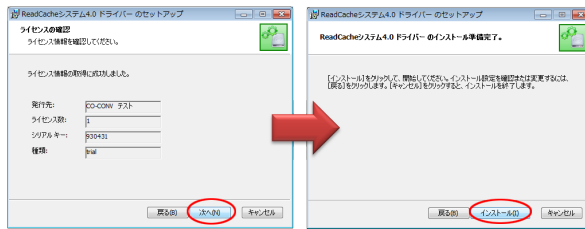


※インストール作業をしている PC がインターネットにつながっていないとき

インストール対象の端末がインターネットに接続されていない場合にはこちらの方法を利用してください。インターネットにつながった別の端末で <https://www.co-conv.jp/ReadCache/license/> にアクセスして「製品に付属するシリアルキー」<sup>9)</sup>を入力し、画面に表示されたライセンスファイルの内容(数行の数字・アルファベットの文字列が表示されます)を「license.txt」<sup>11)</sup>という名前で保存してください。

- ① 取得したライセンスファイルをインストーラと同じディレクトリに置きます。
- ② Page2「7. クライアントでのインストール (クライアント側)」からやり直してください。ライセンスファイルの存在を自動的に検出しライセンスの情報が表示されます。

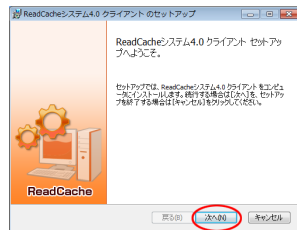
4. ライセンスの情報が表示されます。[次へ] → [インストール] をクリックします。



5. インストール中に変更を確認するドライバのダイアログが表示されることがあります。[インストールする] を選択します。

※ [再起動しますか?] 問かれたときには **[後で再起動する]** を選択してください。<sup>12)</sup>

6. インストールが終了したら、「続けてクライアントツールのインストールを行う」チェックが入った状態で、[完了] をクリックして終了します。
7. 引き続き、クライアントセットアップの画面が表示されます。[次へ] をクリックします。



8. インストール方法を選択する画面が表示されるので、[次へ] をクリックしてください。「ReadCache システムモニター」の情報を収集するサーバーの「IP アドレス」<sup>13)</sup>を入力し、[次へ] をクリックし、インストールを開始します。
9. インストールが完了したら、その後作業端末をシャットダウンします。

- 9)

シリアルキーはご購入元より提供されます。

- ・シリアルキーのフォーマット (18桁程度の数字とアルファベット)  
例: 143258-a849bc-294714

- 10)

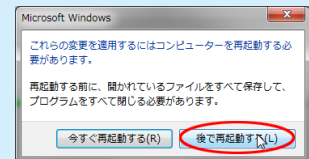
ライセンスサーバーへの接続には HTTP プロトコル (ポート 80) を利用します。

- 11)

※ Windows では、デフォルトで拡張子が表示されません。ファイル名が「license.txt.txt」とならないよう注意してください。

取得した license.txt ファイルには、有効期限が設定されています。期限が切れてしまった際には、同じ手順でライセンスファイルを取得しなおしてください。

- 12)



- 13)

「ポート番号」は、原則として変更しないでください。変更する場合には、「管理者マニュアル」を参照し、サーバー側の変更も行ってください。

サーバーが複数存在する場合には収集するサーバーをいずれか 1 台定めてその IP アドレスを入力してください。

## 10. 動作確認 (クライアント側)

クライアントを再起動して、ReadCache の動作を確認します。

1. C:\Program Files\CO-CONV\ReadCache\ReadCacheClient\_GUI.exe を実行してください。タスクトレイ (画面右下) に表示されるアイコン  をクリックすると、「ReadCache クライアントツール」<sup>14)</sup> が表示されます。

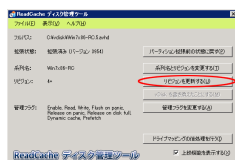
必要に応じて、スタートアップへの登録などをしてください。

### ※ 重要 ※ 「リビジョン更新について」

端末側に効率的にキャッシュを貯めるためには、vDisk の更新作業を行った際にリビジョンを更新する必要があります。

端末は最後にリビジョン更新作業が行われたときのディスクの状態をキャッシュします。また、vDisk の更新作業を行ったあとリビジョン更新をするまでは、端末は更新された部分をキャッシュしません。

そのため、vDisk 更新をするために必ずしも毎回リビジョン更新をする必要はないですが、程よい頻度でリビジョン更新をするようにしてください。(毎回更新をしても支障はありません。)



### ※ 重要 ※ 「vDisk によって ReadCache4.0 と ReadCache3.6 (3.5) とが混在する環境における端末側キャッシュの扱いに関する注意事項」

ReadCache3.6 以前と ReadCache4.0 とでは、端末内のキャッシュの構造が大きく変化しているため、1 台の端末内に両バージョンのキャッシュを共存させることはできません。端末に対する vDisk の割り付けを変更した際に、その vDisk に導入された ReadCache のバージョンが変化する際には、その都度キャッシュの内容が一旦消去されます。また、複数の系列のキャッシュがある場合には、それらすべての系列のキャッシュが一旦消去されます。

### ※ 利用上の注意事項 ※

ReadCache の利用にあたっては、次の点に特にご注意ください。

- ・端末側でキャッシュ領域として利用する HDD が複数種類ある場合には、ReadCacheFixit.exe コマンドを用いて HDD の登録を行う必要があります。詳しくは「管理者マニュアル」をご覧ください。

以上でセットアップは完了です。その他、詳しい内容は「管理者マニュアル」をご覧ください。

株式会社 シー・オー・コンヴ  
ReadCache システム 簡単セットアップ 第2版  
ReadCache システム 4.0 対応  
2012年9月24日

※ Citrix XenDesktop および Provisioning Services は、Citrix Systems, Inc. の米国および、その他の国における登録商標または商標です。  
※ ReadCache システムは、株式会社シー・オー・コンヴの登録商標です。  
※ Microsoft, Windows は、米国 Microsoft 社の米国及びその他の国における登録商標です。  
※ Windows Server は、米国 Microsoft 社の米国及びその他の国における商標です。  
※ その他の会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

14)

キャッシュの動作状況、接続状況を確認できます。詳細については、「管理者マニュアル」をご覧ください。

